

運動療法に重点をおいたリンパ浮腫複合的治療の継続実施にむけて 教育体制を有したチーム体制を構築した取り組みの報告

竹田恵利子[†] 櫛田 幸* 渡久地政志* 太田昌宏* 田中 透*
高橋良多* 押鴨 和* 山崎元徳* 大森まいこ*

IRYO Vol.78 No. 3 (178-182) 2024

要旨

【抄録】リンパ浮腫患者に対する外来治療は普及してきているが、専門的な運動療法を提供する場は少なく、リンパ浮腫外来においても運動療法は指導のみに留まることが多い。そのためリンパ浮腫患者に対して運動療法に重点をおいたリンパ浮腫複合的治療を専門的に実施できる体制作りが急務であると考えられる。埼玉病院は地域がん診療拠点病院であり、リンパ浮腫診療のニーズはあるが対応できるシステムが未構築であった。2020年度よりリハビリテーション科医師によるリンパ浮腫診療外来の開設および専門研修を受講した作業療法士1名にて運動療法に重点をおいた複合的治療を開始した。療法士による複合的治療を継続するために、「卒前教育で学ぶ機会がない」「国立病院機構内で異動があり人材維持が難しい」「人材育成に要する時間が限定されている」という課題が挙げられた。課題解決のために、動画を活用した教育システムや、チームメンバーにて症例情報および治療内容の共有を効率的・継続的に行いやすいシステムを導入し、チーム体制を構築した実践内容を報告する。

キーワード リンパ浮腫, チーム, 教育

はじめに

がんの早期発見技術や治療法の開発により、がんと診断された人（がんサバイバー）が増加しているため、QOLの維持・向上が課題であり、がんリハビリテーションの提供体制のさらなる整備が望まれる¹⁾。治療の進歩により生命予後が改善した一方で、治療の後遺障害によるQOL低下が新しい問題であ

る。続発性四肢リンパ浮腫は骨盤部や乳房のがん治療後の代表的な後遺症の1つで、浮腫、倦怠感、皮膚硬化、関節可動域制限、蜂窩織炎などを引き起こし患者のQOLを大きく低下させる²⁾。リンパ浮腫予防・治療のEBMに基づいた診療ガイドライン³⁾は2008年に初めて国内で発表され、2018年には改訂版が発表された。2009年に発足したリンパ浮腫研修委員会が検討した合意事項では、「日本におけるリン

国立病院機構東京医療センター リハビリテーション科, *国立病院機構埼玉病院 リハビリテーション科 †作業療法士
著者連絡先: 竹田恵利子 国立病院機構東京医療センター リハビリテーション科

〒152-8902 東京都目黒区東が丘2丁目5-1

e-mail: takedaeriko@wro.itsudemo.net

(2023年12月1日受付 2024年4月19日受理)

Report on Efforts to Build a Team System with an Education System for Continuous Implementation of Lymphedema Combined Physical Therapy Emphasis on Exercise Therapy

Eriko Takeda, Miyuki Kushida*, Masashi Toguchi*, Masahiro Ota*, Toru Tanaka*, Ryota Takahashi*, Nodoka Oshigamo*, Motonori Yamazaki* and Maiko Omori*

NHO Tokyo Medical Center, *NHO Saitama Hospital

(Received Dec. 1, 2023, Accepted Apr. 19, 2024)

Key words: lymphedema, team, education